

シンポジウム7: 腎不全・透析・腎移植の新しい治療法

急性期病院における腎代替療法の現状

高知大学医学部泌尿器科学講座

刑部博人*

抄録:

慢性透析療法に関する最新統計(2023年末)によると¹⁾, 腎代替療法導入患者の平均年齢は全体で71.6歳(男性70.9歳, 女性73.1歳)と報告され, 高齢化の進行が明らかとなった。当院でも2024年に平均73歳で21例の導入を経験し, 腹膜透析選択率は24%と全国平均を上回った。透析患者総数は34万人を超え, 国民362人に1人が透析患者に相当する¹⁾。今後もアクセス手術は需要の継続が見込まれ, 専門性維持と技術継承が重要である。本稿では当院の実績を基に現状を報告する。(西日泌尿. 88: 301-302, 2026)

キーワード: 腎代替療法, 血液透析, 腹膜透析, 腎移植, アクセス手術

日本透析医学会「我が国の慢性透析療法の現況」2023年版によると, 年齢と性別の記載が確認された導入患者数は36,115人であった¹⁾。男性25,193人, 女性10,922人であり, 導入患者の平均年齢は全体で71.59歳, 男性70.93歳, 女性73.12歳と報告されている¹⁾。最も割合が高い年齢層は男性75~79歳, 女性80~84歳であり, 高齢化が顕著である。

急性期病院である当院でも, 2024年に21症例の透析導入を経験し, 平均年齢は73歳であった。全国統計では腎代替療法導入の約94%が血液透析, 約6%が腹膜透析である¹⁾。当院では腎臓内科を中心に腹膜透析導入を推進し, 2024年は腹膜透析選択率が24%を達成した。この数値は全国平均を上回り, 患者教育・体制整備の成果と考えられる。

2023年末に慢性透析療法を受けている患者総数は343,508人であり¹⁾, 2021年をピークに減少傾向を示すが, 依然として国民362人に1人が透析患者である¹⁾。これは社会的・医療的負担が大きく, 地域医療体制維持の観点からも課題である。一方, 日本臨床腎移植学会によると, 腎移植件数は近年年間1,600~2,000件前後で推移している²⁾。高齢化やドナー不足の影響により移植以外の腎代替療法の需要は今後も続くと考えられる。

血液透析や腹膜透析を行うための血管アクセス(バスキュラーアクセス)や腹膜透析カテーテルの手術的準備

は必須であり, これらの需要は今後も減少しない。しかし, 術者の偏在や技術継承の課題が指摘されており, 専門医教育の強化が求められる。

当院ではアクセス造設から透析導入まで一貫して対応しており, 関連手術件数は増加している。また, 入院中のバスキュラーアクセストラブルにも全例対応可能な体制を構築している。こうした実践は地域腎医療の安定化に寄与している。

本セッションでは, 当院の診療体制やアクセス手術件数の変化を報告し, 腎不全・透析・腎移植を取り巻く「維新の前夜」として, 急性期病院における腎代替療法の現状と課題を考察する。

文 献

- 1) 日本透析医学会統計調査委員会: 我が国の慢性透析療法の現況(2023年12月31日現在)。日本透析医学会, 2024。
- 2) 日本臨床腎移植学会: 腎移植臨床登録集計報告2023。日本臨床腎移植学会誌, 2024。

* 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
TEL 088-880-2402, FAX 088-880-2404

受付日: 2025年11月17日
受理日: 2025年11月28日

CURRENT STATUS OF RENAL REPLACEMENT THERAPY IN AN ACUTE CARE HOSPITAL

HIROTO OSAKABE

Department of Urology, Kochi Medical School, Kochi University, Kochi, Japan

Abstract

According to the latest national statistics on chronic dialysis therapy as of the end of 2023¹⁾, 36,115 patients initiated renal replacement therapy (RRT) with a mean age of 71.6 years. In our hospital, 21 patients started dialysis in 2024 with a mean age of 73 years. Peritoneal dialysis accounted for 24% of these cases, exceeding the national average¹⁾. As of the end of 2023, the total number of dialysis patients in Japan reached 343,508¹⁾, equivalent to approximately one in every 362 citizens. The annual number of kidney transplants remains around 1,600–2,000²⁾, but aging and donor shortages continue to limit this treatment option. Access surgery for both hemodialysis and peritoneal dialysis remains essential, and maintaining surgical expertise is of critical importance. Our hospital provides comprehensive management, including vascular access creation, dialysis initiation, and complication treatment. We present our clinical experience as a reflection of the current landscape of RRT in Japan at the dawn of a new era.

(Nishinohon J. Urol. 88: 301–302, 2026)

key words: renal replacement therapy, hemodialysis, peritoneal dialysis, kidney transplantation, vascular access surgery
